

ご自由にお取りください



独立行政法人地域医療機能推進機構

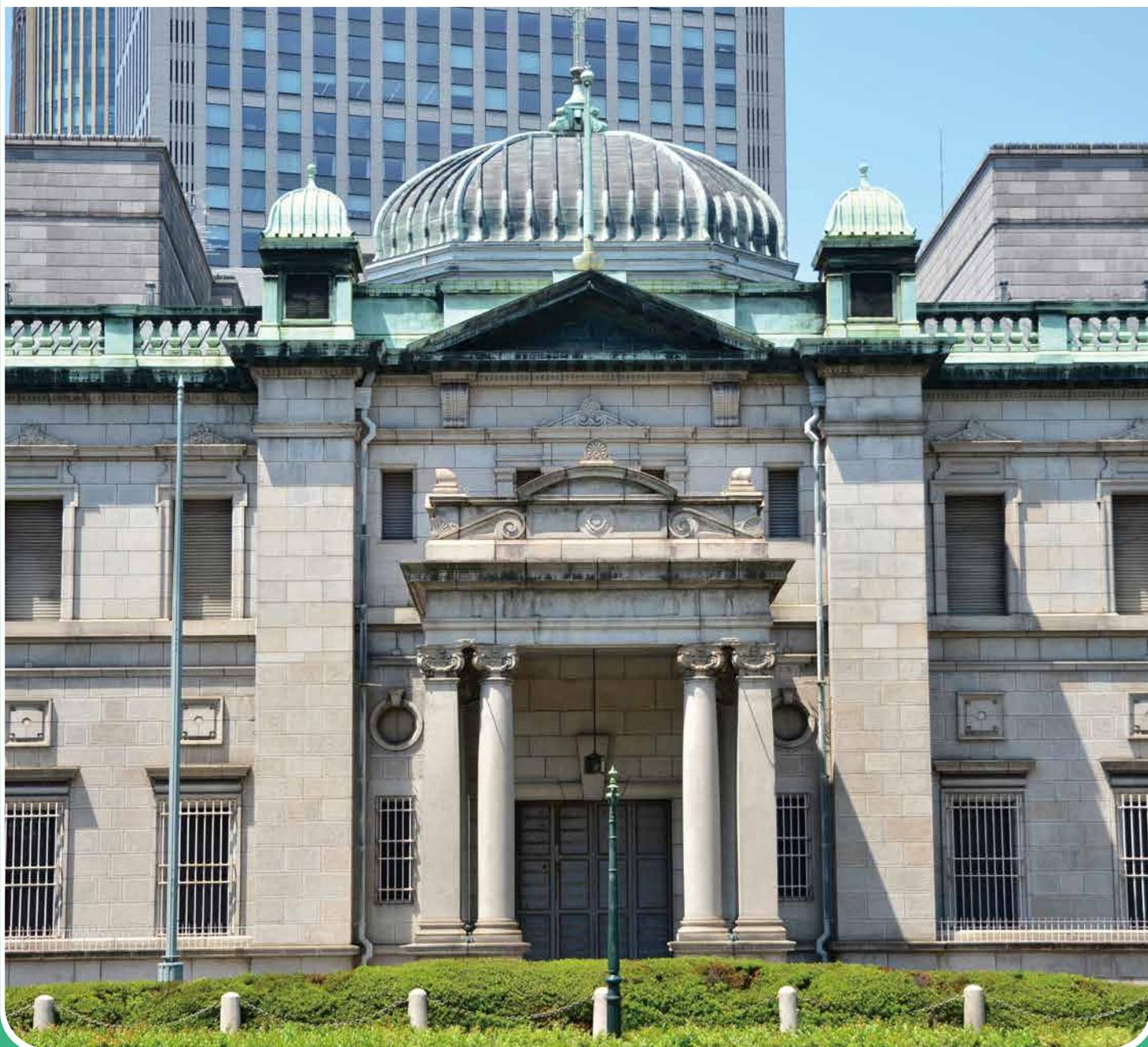
JCHO大阪病院

Open Com オープン・コム

No. 52
2022

「特集」呼吸器センター

開放型病床を持つ開かれた病院として、地域の先生方や住民の皆様とコミュニケーションを図り、心かよう安心の医療を目指します。





これからの呼吸器疾患に立ち向かう、 次世代の呼吸器センター始動！



当院ではこれまで呼吸器内科と呼吸器外科が、連携を取りながら診療を行っていましたが、より強固な関係を構築するため、センター化を行い患者さんのより多くの症状にお応えできる診療体制を整えました。呼吸器センターは、これまでの「患者さん」と「主治医」の1対1の関係から、「医師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士・作業療法士、看護師」が一体となり、一人の患者さんのための「専門家チーム」として、それぞれの専門知識から患者さんの状態にあわせて治療方針や呼吸管理にシームレスに携わることができる体制へと進化させることにより、疾患へのかかわりがトータル管理でき、患者さん一人ひとりに最適な治療を目指しています。



呼吸器センター開設 地域の呼吸器疾患診療に貢献する



当院では、2021年4月1日付けで、私、鴨井が呼吸器内科診療部長に就任するのに合わせて、呼吸器内科として内科から独立しました。今までも内科の一部門として診療を行ってききましたが、より専門性を高めて地域医療に貢献することを目指しました。

さらに、2022年7月1日付けで呼吸器センターが誕生しました。呼吸器内科が組み入れられるとともに、呼吸器外科医も1名から2名に増員され、外科から独立する形で、一緒に呼吸器センターを形作ることとなりました。

呼吸器内科と呼吸器外科は車の両輪ですので、従来より協力して診療を行ってまいりました。センターとなることで単に名前が変わっただけでは意味がなく、内科と外科の仕切りを更に低くし、速やかな連携を取ることを目指します。同時にセンターとなることで外来は同じブースで、病棟も呼吸器センター病棟となります。病棟では看護師たちが、従来より高いレベルを目指して看護を提供してきておりましたが、更に専門看護師の育成などをすすめ、リハビリテーション科、栄養管理室とも連携し集学的な医療の知識を蓄積し、呼吸器疾患をお持ちの方々に質の高い医療を提供することを目指しています。病棟でのカンファレンスも昨年は呼吸器内科のみで行い、必要時には呼吸器外科に相談する体制でしたが、呼吸器内科、呼吸器外科、放射線治療医、病棟看護師長、研修医が参加する形で行われ、治療面だけではなく看護における問題点も考慮しディスカッションする場となりました。当院では呼吸器外科医の増員も実現できましたので、今まで以上に積極的に呼吸器疾患の手術を行っていく方針です。本誌P04に外科の先生の最近の状況についてコラムを記載していますので参照ください。



呼吸器センターメンバー（2022年7月撮影）



カンファレンス風景



胸腔鏡



呼吸器内科



現在4名の常勤医と数名の非常勤医師で診療を行っています。3名が呼吸器専門医を取得しています。まだまだ微力ですが、様々なお声に応えるべく増員を予定しています。

呼吸器内科は気管支と肺にまつわる非常に多岐にわたる病気を診察させていただく診療科です。気管支喘息、過敏性肺炎、リウマチ・膠原病肺に代表される免疫異常や特発性の間質性肺疾患などに関してはアレルギー専門医を中心に診断評価しています。呼気NOや肺機能検査他を活用し確定診断に努め、吸入による気管支拡張剤やステロイド剤投与を中心とした治療、最近では重症の方へ生物学的製剤の使用を行いQOLの改善に努めています。COPD（慢性閉塞性肺疾患）に代表される気道疾患、肺炎などの感染症に対しては呼吸器専門医が主体になります。感染症でも非結核性抗酸菌症に対しては結核・抗酸菌症認定医を中心に対応しています。昨今では、COVID-19により医療体制が大きく変化しています。当院では重症肺炎となったCOVID-19を呼吸器内科が担当しています。

呼吸器疾患の中でも中心的存在の一つである肺がんは、悪性腫瘍の中で我が国の死亡原因の第一位となりました。気管支鏡検査や胸腔鏡検査、CTガイド下肺生検などにより確定診断し、CTやMRI、核医学検査などで病期分類を決定します。がん治療認定医を中心に呼吸器外科医や放射線治療医とも連携して手術、放射線療法、化学療法などの集学的治療を行っています。

また、COPDや肺線維症の方を対象にリハビリテーション室との連携のもと呼吸器リハビリテーションも開始を準備しています。呼吸器疾患は、疾患の種類が極めて多いだけでなく、症状が似ており咳や痰などの自覚症状のみでは経過観察でよい状態なのか直ちに治療を必要とする病気なのかの判断が難しいことが多いため、症状が続く場合はぜひ専門医へ受診をお勧めします。一枚の胸部レントゲン写真や肺機能検査が病気の診断に非常に役立ちますし、今まで気づいておられなかった肺や気管支の病気が判明することもあります。症状が安定された場合はかかりつけの先生と連携を取りながら、入院が必要な場合は当院で対応させていただく体制をとっています。慢性の咳など「どうせ、治らないから」とあきらめず、一度呼吸器専門医へご相談いただければと思います。



2022年7月より増員となり、呼吸器外科専門医2名体制となりました。急患に対して、これまで以上に速やかに対応できるよう心掛けています。

当科で扱う主な疾患には、肺がん、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、肺嚢胞、胸膜炎・膿胸、胸膜・胸壁腫瘍などがあります。

現在の呼吸器外科手術では、早期肺がんに対してはモニター視による胸腔鏡下手術（VATS: Video-Assisted Thoracic Surgery）が主流です。当科では小開胸創からの直視併用での胸腔鏡下手術（いわゆるhybrid VATS）を主に行ってきましたが、体制強化により完全胸腔鏡下手術（complete VATS）を第一選択とするようにしました（図1）。



図1

近年、胸部CT撮影により偶然、肺の小結節が発見されることが多くなってきました。これまでの画像診断と切除肺の病理組織学的診断との比較研究により、いわゆる、すりガラス型病変（内部に肺血管がみえる）の多くは非浸潤性腺癌、充実型病変（内部に肺血管がみえない）は浸潤性腺癌や扁平上皮癌を反映していることがわかってきました。現在の肺癌取扱い規約第8版でも進行度の評価において病変全体径よりも、充実成分径を重視しています（図2）。

すりガラス型優位な病変は、術前に気管支鏡下生検で確定診断を得ることが困難です。未診断のまま長期間経過観察されているうちに、病変全体径の増大と共に充実型優位となり、浸潤癌となる場合があります。画像の推移から肺がんが疑われたら、あるいは紹介するべきか迷われた場合は、そのタイミン

CT 画像所見と腫瘍径

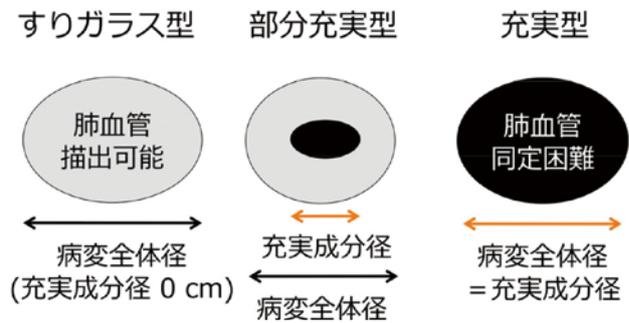


図2

グでご紹介頂ければ手術適応を検討します。

手術が望ましいと判断した場合、病変全体径、充実成分径の割合、位置、年齢、呼吸機能や併存疾患などを考慮して術式を決定しています。ガイドライン上の標準術式である肺葉切除術だけでなく、根治性と機能温存を考慮して区域切除術や部分切除術を選択する場合があります。比較的単純な左肺S⁶区域切除術（図3）などだけでなく、より複雑な右肺S⁹⁺¹⁰区域切除術（図4）なども行っています。

気胸には、若年者に多い自然気胸と中高年者に多い肺気腫による続発性気胸などがあります。自然気胸では主に肺尖にブラが生じ、それが破裂することによって空気漏れが生じ発症します（図5）。胸腔鏡下手術でブラを含めた肺部分切除術を行います。また、続発性気胸では、肺気腫の程度や併存疾患などを含めて手術適応を検討して対応しています。

いずれの疾患についても、呼吸器内科か呼吸器外

左S⁶区域切除術

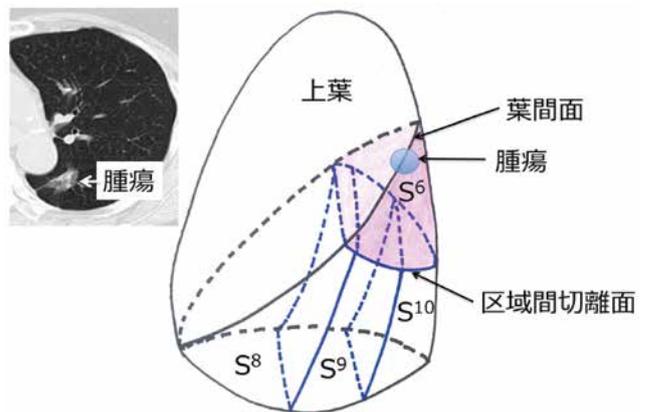


図3

右 S⁹⁺¹⁰ 区域切除術

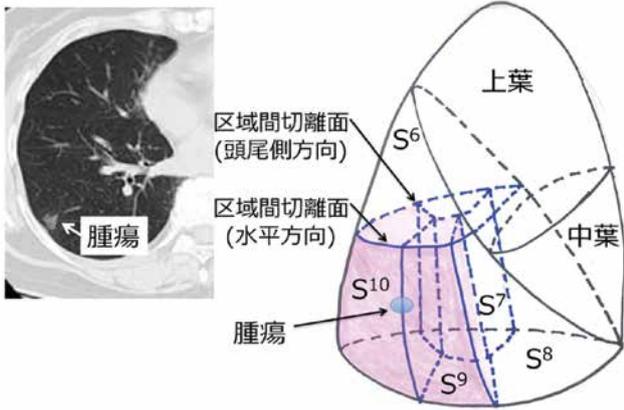


図4



図5

科か、紹介先に迷われた場合は、どちらでも結構ですのでご紹介頂ければ幸いです。

最後に、肺がん地域連携パスについてご説明します(図6)。術後病理組織学的に腫瘍径(充実成分径) 2 cm 以上のI期肺腺癌では、肺癌診療ガイドラインに則り再発予防目的にUFTという抗がん剤の内服治療(補助化学療法)をお薦めしております。希望されなかった患者さん、あるいはより早期の患者さんに対して、当院とかかりつけ医が協力して経過観察していく目的でパスの導入をお願いしております。導入に当たっては、地域連携室より詳細をご説明申し上げますのでご協力の程を重ねてお願い申し上げます。

肺がん地域連携パス

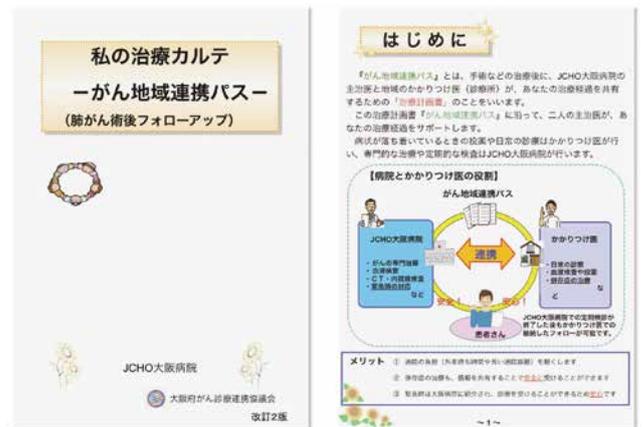


図6

当院の活動が紹介されました

新聞記事

掲載年月日	新聞名	掲載タイトル	内容
2022年6月15日	読売新聞	病院の実力「肩の病気」 (2021年治療実績)	新規患者数計 298人
2022年6月20日			手術総数 92件
			人工関節(置換術) 7件
2022年8月21日		病院の実力「大腸がん」 (2021年治療実績)	手術総数 104件
			うち腹腔鏡 101件
			内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD) 96件

11 階東病棟紹介

呼吸器センターは11 階東病棟に設置されました。看護師長1名、副看護師長1名、スタッフ22名で、日々看護にあたっています。肺がん、COPD、肺炎をはじめ、多くの呼吸器疾患の検査から手術、化学療法、放射線療法などの治療を受ける患者さんの看護を行っています。積極的治療が難しくなったがん患者さんが直面する心や身体のだらさに対しても、緩和ケアチームと連携し支援を行っています。呼吸器疾患の専門病棟として、患者さんをはじめとしたご家族のケア・看護が提供できるよう、実践力の向上に取り組み、専門性を高めています。



呼吸機能検査って何

肺の病気の患者さんだけでなく、全身麻酔手術を受ける場合などに、呼吸機能検査を行います。呼吸機能検査とは呼んで字のごとく呼吸の機能を調べる検査です。主に病気の原因を調べたり、薬物やリハビリなどの治療経過の観察に使われたりしていますが、全身麻酔のためにスクリーニング検査としても行われています。

ではこの検査で、何をみているのでしょうか。

1) 肺活量 (VC)

最大吸気と最大呼気間の量をみます。肺容量をみており、どれだけ息を吸う力があるかをみます。基準値と比較して80%以上あれば正常とみなします。80%未満であれば、拘束性障害といいます。

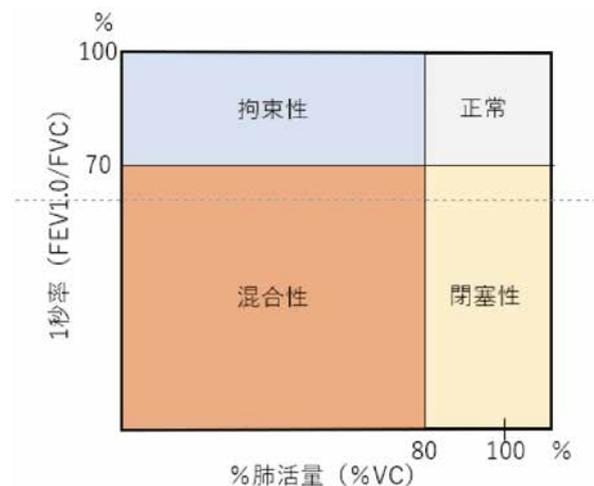


2) 1秒量 (FEV1.0)

空気を目一杯吸い込んだあと、一気に吐き出します(努力呼吸)。最初の1秒間に吐き出した空気の量をさします。自分の努力肺活量(FVC)の70%以上あれば正常とみなします。70%未満であれば閉塞性障害といいます。息を吸う力が足りなければ息苦しくなるのは当然ですが、息を吸う力があっても吐く力が不十分であれば、次第に息があがっていきます。

基準値は年齢、性別、身長で決められています。

主にこの2つから換気障害がないかを判定し、疾患を探っていきます。さらに詳しい呼吸機能が必要であれば、精密呼吸機能検査を行います。その内の一つを紹介します。



3) 拡散能 (DLCO)

ごく少量の一酸化炭素を混合した空気を吸入してもらい、10秒間の息こらえの後、呼出します。呼吸前後のガス濃度を測定することで拡散能が計算できます。拡散能は酸素の取り込み能力の指標といわれています。どれだけ肺活量があっても肺が酸素を取り込むことができなければ意味がありません。肺がどれだけ機能しているかを判断します。

呼吸機能が悪いと息があがりやすいため、疲れやすくなります。徐々に筋力と体力の低下を来します。日常的な散歩などの運動が重要ですが、病気などで低下してしまった場合には難しいこともあります。

低下しきってから回復することは難しいため、早くからケアしていくことが重要です。

息があがるようになった、タバコを吸っていたので心配という方は、一度ご相談ください。

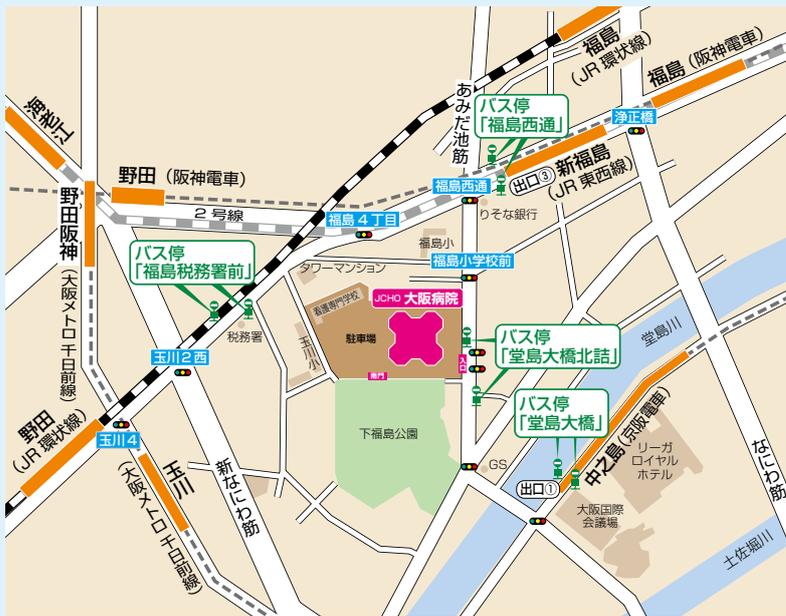
JCHO 大阪病院の受診について

■ 予約なしで受診

- ◆ 紹介状をお持ちでない場合も、受診いただくことができます。
紹介状をお持ちでない場合には、選定療養費がかかることがありますので、ご了承願います。
- ◆ ご都合の良い日に、紹介状を持参し、11:30 までに受付へお越しください。
 - * 診療のスケジュールをご確認の上、ご来院ください。
 - * 整形外科と神経精神科は完全予約制です。かかりつけ医にご相談ください。

■ かかりつけ医からの紹介予約

- ① かかりつけ医が、FAX もしくは電話で予約する。
 - FAX の場合は、「紹介予約申し込み書^{*}」に記入して地域連携室へ送り、返送された「予約通知書」を受け取る。
 - 電話の場合は、「電話予約申し込み書 兼 予約通知書^{*}」に記入し、専用の予約電話番号（申し込み書に記載）で予約をとる。
- ② 予約通知書と紹介状を持参して予約日にご来院ください。
※ 「紹介予約申し込み書」「電話予約申し込み書 兼 予約通知書」がかかりつけ医にない場合、当院ホームページからもダウンロードできます。



- JR 東西線
「新福島駅」下車徒歩約 5 分
※ 出口 1 にはエレベーター、出口 2 にはエスカレーターがございます。
※ 当院に一番近い出口 3 には階段しかございません。
- 京阪電車 「中之島駅」下車徒歩 5 分
- JR 環状線
「福島駅」下車徒歩 10 分
「野田駅」下車徒歩 15 分
- 阪神電車 「福島駅」下車徒歩 10 分
- 地下鉄
千日前線 「玉川駅」下車徒歩 10 分
- 市バス
大阪駅前 鶴町四丁目 [55] 方面 「堂島大橋北詰」下車 すぐ
大阪駅前 西島車庫前 [56] 方面 「福島西通」下車 徒歩 5 分
大阪駅前 西島車庫前 [56] 方面 「大阪福島税務署」下車 徒歩 5 分
大阪駅前 船津橋 [53] 方面 「堂島大橋」下車 徒歩 5 分
- タクシー
「大阪駅」より約 10 分



地域医療支援病院 日本医療機能評価機構認定病院/大阪府がん診療拠点病院

JCHO (ジェイコー) 大阪病院 信頼に応える医療

独立行政法人地域医療機能推進機構 (旧 大阪厚生年金病院)

JCHO大阪病院

検索

〒553-0003 大阪市福島区福島 4-2-78

TEL (06) 6441-5451 (代表) FAX (06) 6445-8900

<https://osaka.jcho.go.jp/> この広報誌に対するご意見・ご要望は、当院広報委員会宛まで

大阪府「男女いきいき・元気宣言」登録事業者/「動きやすい病院」認定病院 (第 1 号) / につけい子育て支援大賞受賞 / 女性のチャレンジ支援賞 (内閣府) 受賞

JCHO 大阪病院 SNS はこちら



LINE



Facebook



Instagram



古くより四つ葉のクローバーは「見つけた人には幸運が訪れる」とい言い伝えがあります。当院は患者さんや地域の皆様が幸せになるお手伝いができるよう四つ葉のクローバーの形をモチーフにしております。